

未来を拓く 働き方改革

—教員のウェルビーイング実現への道筋—

大分県	こども未来課	井川 智恵
玖珠町	福祉保険課	藤原 正太
大分県	竹田土木事務所	志賀 空



＊

「子供のためであればどんな長時間勤務も良しとする
という働き方は、その中で教師が疲弊していくのであれば、
結果としては子供のためにはならない。」

「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について（答申）
令和6年8月27日 中央教育審議会 より

＊

ウェルビーイングとは



教員のウェルビーイングが
社会のウェルビーイングに
つながる！

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むもの。



子供たちのウェルビーイングを高めるためには、教師のウェルビーイングを確保することが必要であり、学校が教師のウェルビーイングを高める場となることが重要である。子供の成長実感や保護者や地域との信頼関係があり、職場の心理的安全性が保たれ、労働環境などが良い状態であることなどが求められる。

加えて、職員や支援人材など学校の全ての構成員のウェルビーイングの確保も重要である。こうしたことが学びの土壌や環境を良い状態に保ち、学習者のウェルビーイングを向上する基盤となり、結果として家庭や地域のウェルビーイングにもつながるものとなる。

次期教育振興基本計画について（答申）
令和5年3月8日 中央教育審議会

流れ

1 背景

2 課題分析

3 施策検討

4 まとめ



流れ

1

背景

2

課題分析

3

施策検討

4

まとめ





学校教育現場は厳しい状況に置かれている

教員の超過勤務が多い

ストレス過多

心身の健康を損なう

モチベーションの低下や時間・人材不足により、十分な教育活動を実施できない

学校教育が破綻する

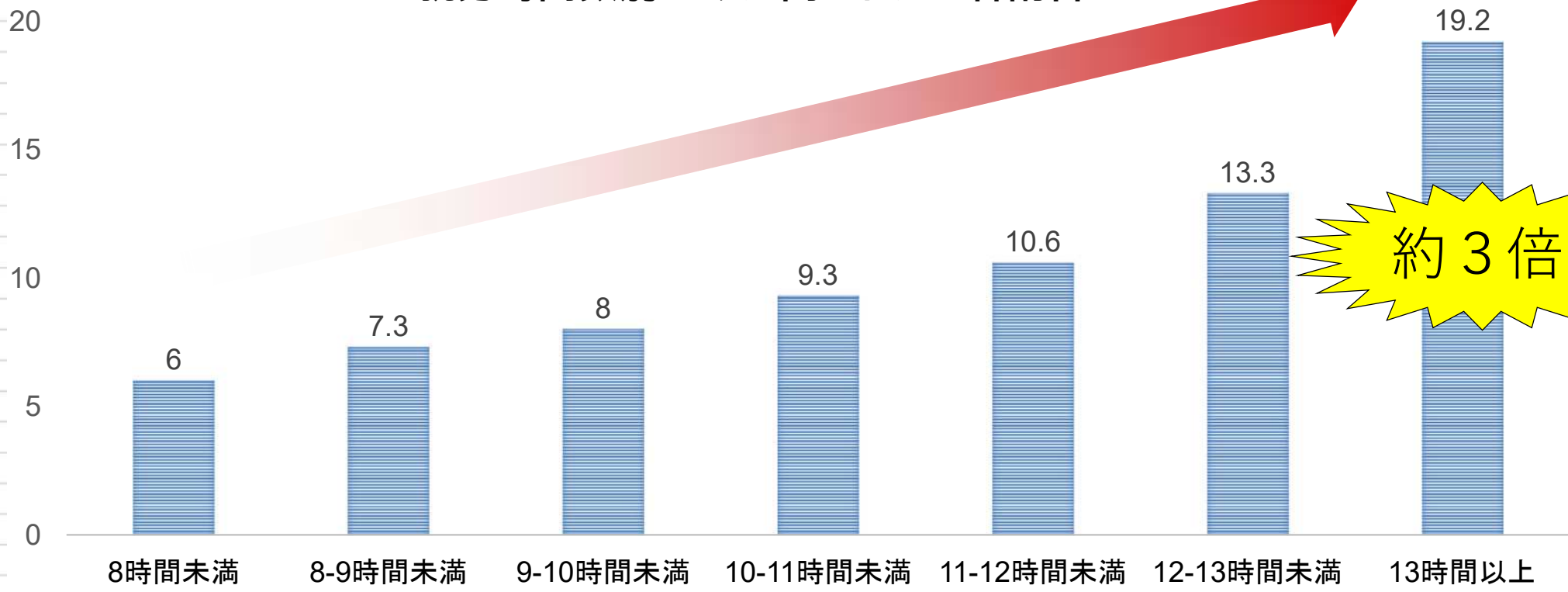


ウェルビーイングが実現できていない・・・



就労時間が長いほど、高ストレス者が多い

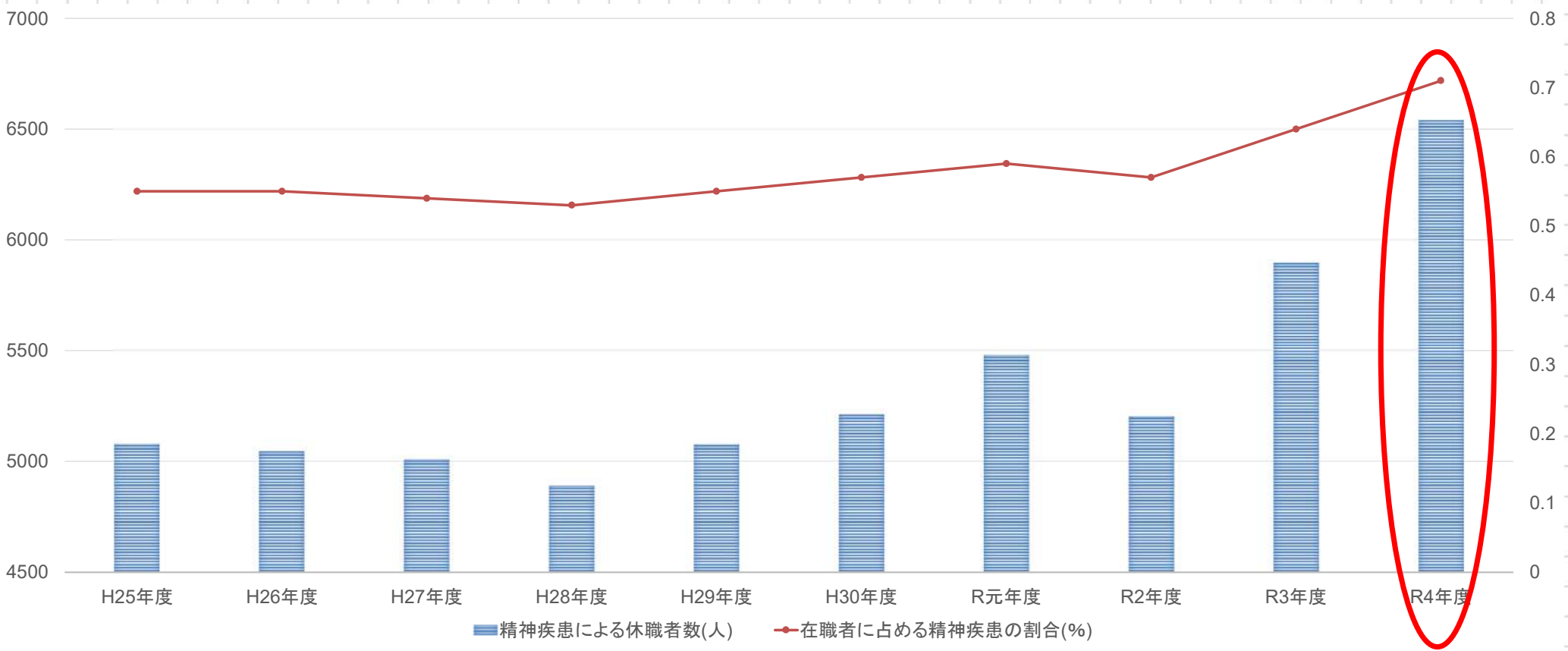
(%) 就労時間数別にみた高ストレス者割合



約3倍



精神疾患による病気休職者数は過去最多



教師の不足率・充足率がともに低い 大分県

「教師不足」に関する実態調査

令和4年1月



調査対象

都道府県・指定都市教育委員会及び
大阪府豊能地区教職員人事協議会
(計68)

- ・ 令和3年度始業日時点の小・中学校の
「教師不足」人数（不足率）
合計2,086人（0.35%）

大分県 0.74% (中学校)

62位 / 68中

※不足率：

不足数 ÷ 学校に配当されている定数

（この定数は条例等で決められており、団体によって異なる。）

- ・ 義務標準法に基づく充足率は
全国平均 101.8%

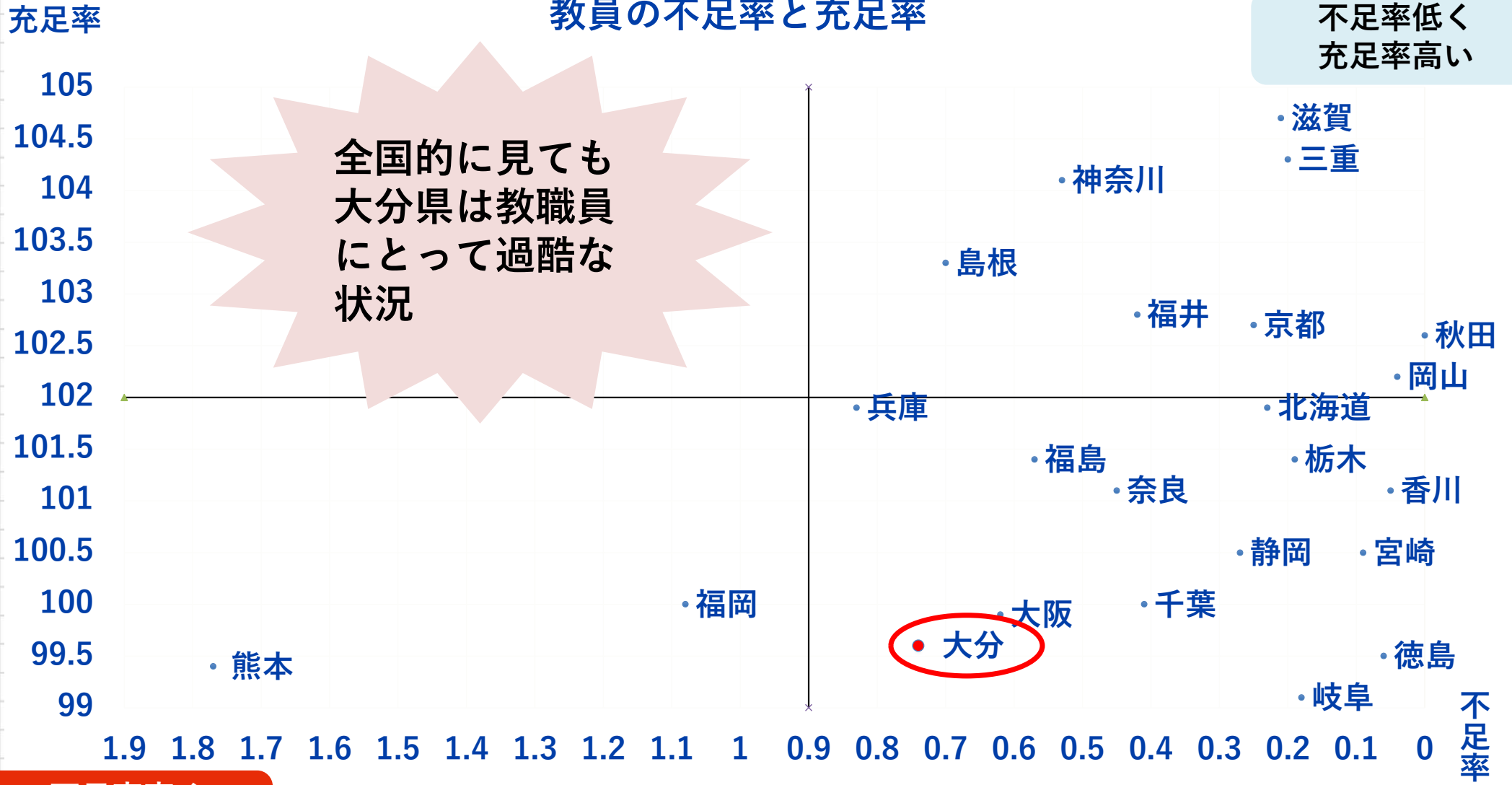
大分県 99.6%

64位 / 68中

※義務標準法に基づく充足率：

義務標準法に基づき算定される小中学校の定数に対する、
校長・教諭等の充足率

教員の不足率と充足率



全国的に見ても
大分県は教職員
にとって過酷な
状況

不足率低く
充足率高い

不足率高く
充足率低い



超過勤務の現状

大分県内ニュース

大分県内の小中学校教職員ら4割が残業上限超過 3割は休憩時間取れず

2024/05/11(土) 03:00. 社会

県内の小中の教職員らでつくる県教職員組合（県教組）は、学校などの労働実態に関するアンケート結果をまとめた。残業が上限の月45時間を超えている教職員は全体の39・9%で、前回2021年調査と比べて14・5ポイント増えた。3割は休憩時間を全く取れていなかった。「働き方改革は進んでおらず、現場は疲弊している」と改善を訴えている。

アンケートは昨年9月27日～11月22日の間で、特別な予定がない1週間の勤務状況を聞いた。組合員約2800人が回答した。

残業に相当する時間外在校時間は、月換算の平均では▽中学校 56時間34分▽幼稚園・こども園 38時間10分▽小学校 37時間45分▽特別支援学校 23時間51分一の順が多かった。

過労死ラインとされる月80時間超の教職員は中学校で23・7%、小学校で4・6%いた。

1日当たりの平均では平日が全校種で1～2時間程度、土日は中学校が3時間。いずれも前回調査と変わらなかった。

残業理由は授業の準備や部活動の指導が多くを占めた。残業上限超過の教職員が増えたことについて、県教組は新型コロナウイルス感染症の5類移行で、校内活動が活発化したのも要因とみている。

労働基準法は1日の勤務が6時間を超える場合、最低45分の休憩を与えることを定めている。

休憩時間の平均は▽小学校、幼稚園・こども園 12分▽中学校 17分▽特別支援学校 20分一。全体の約3割が「全く取れていない」と答えた。



月45時間以上
39.9%
(2021年比
14.5ポイント増)

3割は休憩時間さえ
全くとれていない

大分合同新聞プレミアムオンライン
Gate 204.5.11

流れ

1

背景

2

課題分析

3

施策検討

4

まとめ



ペルソナ / PERSONA

採用 10年 仕事熱心な中学校教諭



属性情報 / Demographic Data

名前：山本 達也

年齢：33歳

出身：玖珠町

大学：大分大学 教育学部

家族構成：妻・子（3才・0才）

担当教科：理科

背景 / Background



市内の公立中学校勤務、サッカー一部顧問、結婚6年目

性格 / personality



明るく活発で、リーダーシップがあり、生徒からも人気

価値観 / Values



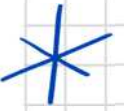
生徒一人ひとりの成長をサポートしたい、仕事とプライベートのバランスを大切にしたい

悩み / trouble



雑務で生徒に向き合う時間が少ない、超過勤務が多い、家族との時間がとれない

カスタマージャーニー Customer Journey Map



山本 達也 (33)

仕事と家庭を両立したいが、残業が多く子どもとの時間が少ない。
生徒との時間も確保したいが、業務が多く時間がとれない。

BAD END

フェーズ

採用前

採用後 (3年目)

採用後 (7年目)

採用後 (10年目)

行動

両親の影響で教員を志し、勉学に励む。

実習で生徒の成長を見ることにやりがいを感じ、教員を目指す。

担任を持ち、一生懸命仕事を行うが**残業**も多い。

前年度踏襲が多く、仕事の**精選が進まない**。
保護者からの要求が多い。

結婚し、子どもが生まれ、家庭生活も多忙。

同僚の病休により負担がさらに増え、自身も精神を病んでしまい、休職。

復帰が困難で、離職。

感情



課題ツリー

1 学校の働き方改革についての広報が不足している

学校が過度なサービスを求められる

本来、社会・家庭教育で担うべき役割も学校教育が担っている

2 社会全体の働き方改革が十分ではない

保護者に余裕がない

3 学校の働き方改革の研修が不足している

前例踏襲などにより変化が生まれない

業務精選ができていない

4 義務標準法に基づく教員の充足率が低い

各校に配置される人数が少ない

教員の数が足りない

5 教員を目指す人が減っている

定数を満たせず、臨時講師も足りない

ウェルビーイングが実現できない

教員の超過勤務が多い

教師不足が加速・学校教育の破綻

調査内容

- 1 学校の働き方改革に関する広報の実施状況
- 2 社会への働き方改革への取り組みの現状
- 3 働き方改革研修の実施状況
- 4 教員定数の充足率
- 5 教員の志望数





先進地視察 – 島根県教育庁 学校企画課 働き方改革推進室 –

1



社会への理解を求める広報

県・市町村教育長の共同メッセージの発出

2



働き方改革推進のための研修

外部講師から各校の代表者が学び、推進の核となる

* 先進地視察 内容1

社会への理解を求める広報



県・市町村が協働して
働き方改革に取り組む
姿勢を示す

- ・ 県と市町村教育長の共同メッセージ
- ・ 保護者や地域の人々に向けて、学校現場の厳しい状況や協力してほしいことを具体的に示している
- ・ 県下に統一で出しているためばらつきがなく、現場が使いやすい
- ・ 県は新聞やテレビ等で広報。市町村は独自で広報。現場ではPTA総会やコミュニティースクールで説明する等の活用がなされている。

島根県内教育長 共同メッセージ - 保護者・地域の皆さまへ -

誰かの、誰かの、
たからもの。

教職員の「働き方改革」にご理解・ご協力をお願いいたします。

こは、
個性や使命感、教育的愛情といった資質を胸に抱き、
たちのために全力を尽くす責任があります。
の責任を全うするため、教職員の心身の健康は不可欠です。
の働き方の状況を見ると、
るもの、今なお長時間の時間外勤務が発生しており、
点も増えています。
学校を中心に、配置すべき数の教職員を
さない事態も生じています。
「働き方改革」によって、こうした状況を打開するとともに、
生み出した時間を充て、
前の授業を踏まえた次の授業の準備や
プリント等の添削、個別の学習支援、教育相談など、
子どもたち一人ひとりに丁寧に向き合える
環境をつくりたいと思っています。
このため、
県・市町村が協力して「働き方改革」に取り組みますので、
何卒ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご協力いただきたいこと

(実施する取組や時期は、市町村・学校によって異なることもあります。)

**学校へのお電話は、
緊急時を除き、
可能な限り勤務時間内
をお願いします。**

教職員の勤務時間は、学校によって異なり
ますが、概ね午前8時頃から午後5時
頃までです。
なお、学校からの電話連絡は保護者さまに
連絡が取れる時間に行うことがあります。

**登下校については、引き
続き、ご家庭・地域での
見守りにご協力を
お願いします。**

子どもたちの安全な登下校のため、
引き続き、皆さまのご協力を願います。
また、校外生活についてもご家庭で
ご指導をお願いします。

**地域・学校の連携を推進する
ためにも、学校へ参加を求める
会合・行事のうち可能なもの
については、平日・勤務時間内の
開催もご検討ください。**

学校によっては、学校が開催する会合につ
いても、参加者誰もが参加しやすい時間・
方法の工夫を進めます。

島根県教育委員会教育長 松江市教育委員会教育長 浜田市教育委員会教育長 出雲市教育委員会教育長 益田市教育委員会教育長
大田市教育委員会教育長 安来市教育委員会教育長 江津市教育委員会教育長 雲南市教育委員会教育長 美出雲町教育委員会教育長
船岡町教育委員会教育長 川本町教育委員会教育長 美郷町教育委員会教育長 巴南町教育委員会教育長 津和野町教育委員会教育長
古賀町教育委員会教育長 海士町教育委員会教育長 西ノ島町教育委員会教育長 知夫村教育委員会教育長 隠岐の島町教育委員会教育長

令和5年12月22日 共同メッセージ 於・島根県民会館

お問い合わせ：島根県教育庁学校企画課 TEL 0852-22-6674

* 先進地視察 内容2

働き方改革推進のための研修



働き方改革の核となる
人材を育成！

- ・ 学校において働き方改革の中核となるリーダー教職員の育成をめざす。
- ・ 1年の間に5回行われ、各学校の研修にも講師が出向いたり相談にのったり等、取り組みが途切れないように伴走支援。
- ・ 実践を行った管理職が、数年して異動先の学校でも働き方改革に取り組むという正の循環がある。



現状分析

	大分県	比較対象
1 学校教育の役割 についての広報	広報なし △	島根県：広報あり ○
2 社会全体の 働き方改革	取り組みあり	
3 働き方改革の研修	オンデマンド研修 △	島根県：「働き方改革挑戦校」 ※リーダー養成研修 ○
4 義務標準法に基づ く教員の充足率	99.6% △	全国平均：101.8%
5 教員を目指す人 の数	1,120名（令和7年度） 出願倍率:2.6倍	前年度比254名減 出願倍率0.7減

流れ

1

背景

2

課題分析

3

施策検討

4

まとめ



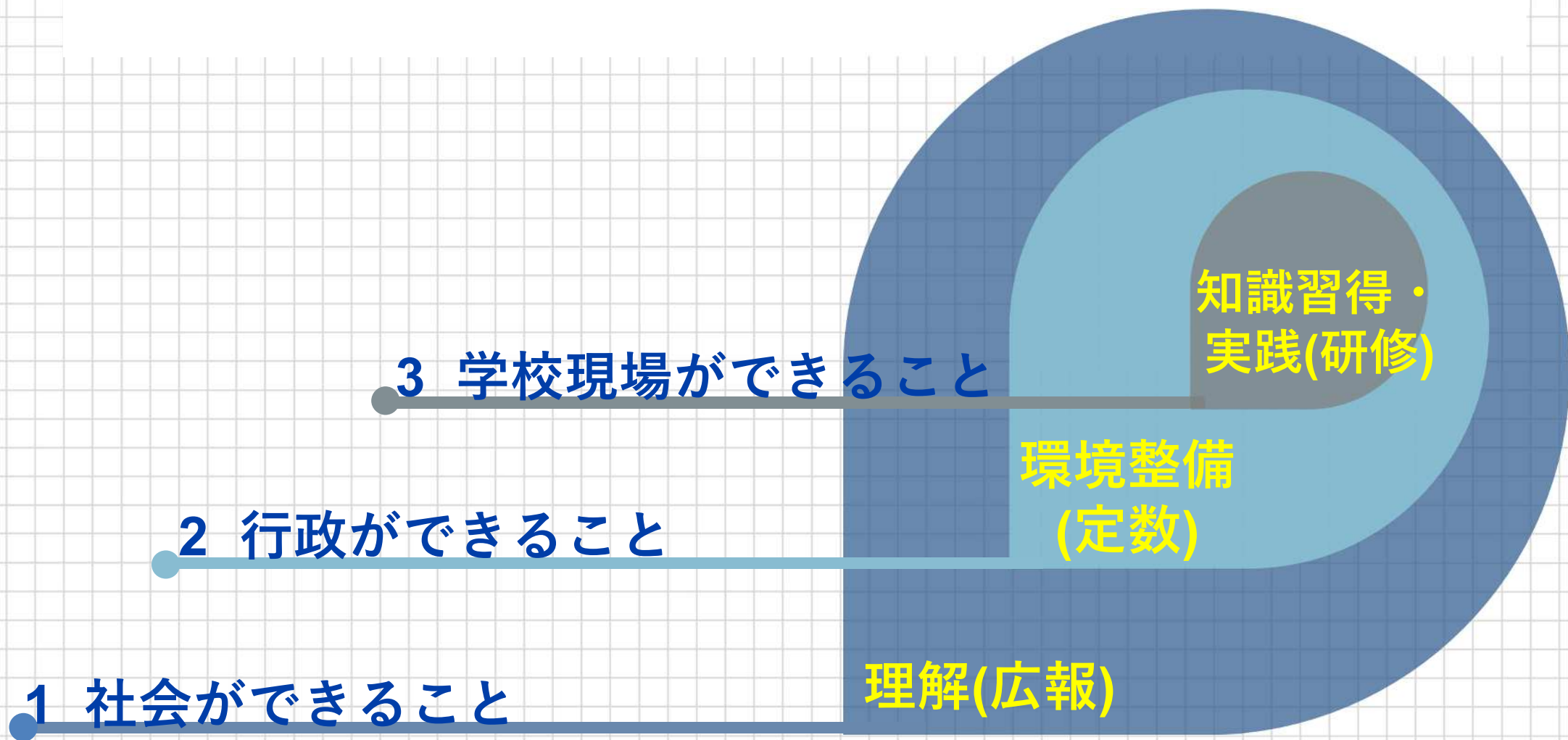


実現のための 3つの施策提案

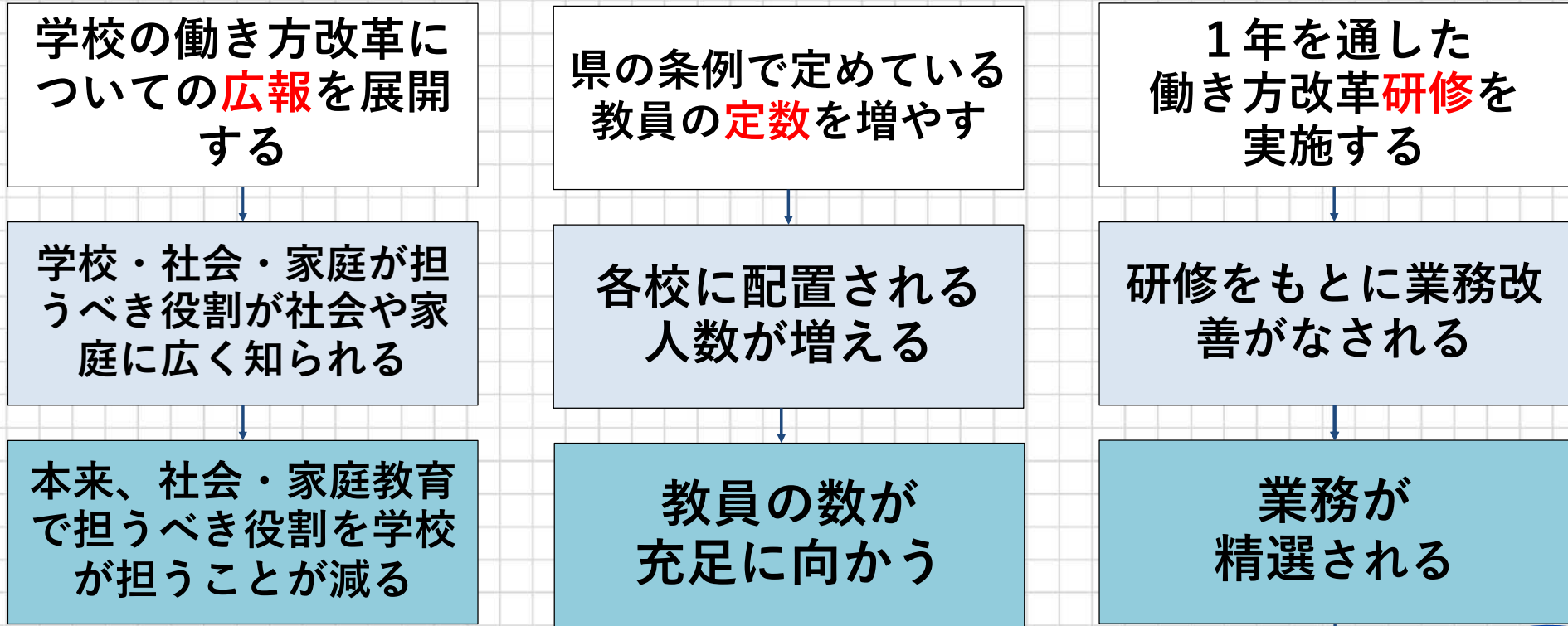


- 1 学校の働き方改革についての**広報**を展開する
- 2 県の条例で定めている教員の**定数**を増やす
- 3 1年を通じた働き方改革**研修**を実施する

3つのターゲットそれぞれに施策を打つ



仮説ツリー



ウェルビーイングの
実現

..**教員の超過勤務が減る**..

持続可能な教育へ

施策提案 1

学校の働き方改革についての**広報**を展開する

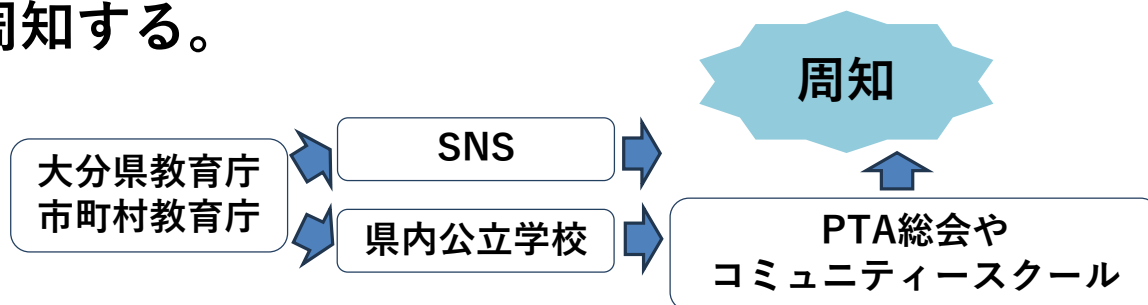
目的

学校の働き方改革の目的と内容を社会・家庭に知らせることで、家庭・社会の学校の働き方改革への協力姿勢を醸成する。

事業概要

大分県と大分県の市町村の教育長が合同で家庭・社会に向けた学校の働き方改革に関するメッセージを発出する。その内容をリーフレットやSNS広告で周知する。

体制



学校の働き方改革についての**広報**を展開する

R7

月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

1
共同宣言（メッセージ）
賛同の可否、業務負担軽減に特に効果的と思われる事項（宣言内容）について市町村へ依頼（文書）

2
市町村の意見を踏まえて、共同メッセージ案の作成

3
市町村へ案を提示し、協議

4
共同メッセージの内容や公表の流れについて市町村での確認・調整

5
共同メッセージ発表

★
県HPに掲載

公立学校長に説明会

公表翌日の新聞に
広告を掲載

施策提案 2

県の条例で定めている**教員の定数を増やす**

目的

教職員数を増やすことによって、教職員一人当たりにかかる負担を軽減する。

事業概要

大分県立学校職員及び大分県市町村立学校県費負担教職員定数条例を改正し、教職員定数を増やす。



県の条例で定めている教員の定数を増やす

① 現状の教職員定数の調査を行い、調査結果を基に条例改正について議案書の作成。

② 教育委員会での審査を行い、承認を受ける。承認を受けた議案書を議会へ提出する。

③ 議案の議決後、条例の改正を行う。

④ 翌年度以降段階的に定数が増加、充足される。

R7

R8

4月

7月

10月

1月

4月

7月～

①定数の調査

②議案の審査
及び提出

③議会承認、条例改正

④定数
増加



施策提案 3

1年を通じた働き方改革研修を実施する

目的

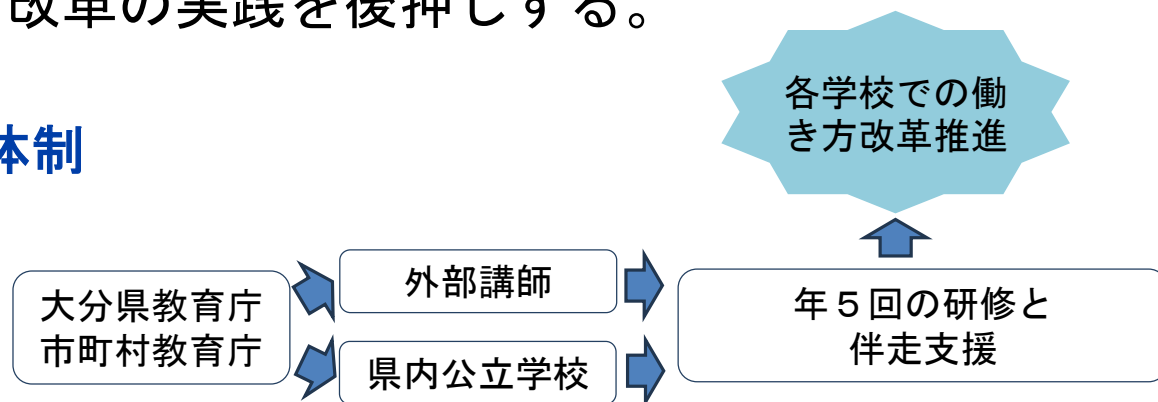
働き方改革の中核となるリーダー教職員の育成を行う。



事業概要

外部講師を招聘し、希望する学校の代表者に年5回程度の研修（オンライン含む）を実施。併せて、学校訪問研修や個別相談等、各学校での働き方改革の実践を後押しする。

体制



予算とスケジュール

	R6				R7				R8				R9			
	月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月			
	事業内容決定				実証事業 & 検証				事業説明 実施校選定				校内の業務改善（伴走支援）			
	業者決定															
					★ ★				★ ★ ★ ★ ★							
									オンライン研修（年5回）							
予算	一括委託：200万円				一括委託：400万円				一括委託：400万円							
	モデル校2校で実証事業を想定 数回の研修会+学校訪問 助言、相談対応による伴走				取り組む学校を募集 年5回の研修会+学校訪問 助言、相談対応による伴走 各校における改革を支援				取り組む学校を募集 年5回の研修会+学校訪問 助言、相談対応による伴走 各校における改革を支援 県内各校への横展開・循環							

流れ

1 背景

2

課題分析

3 施策検討

4

まとめ



カスタマージャーニー / Customer Journey Map



山本 達也 (33)

仕事と家庭を両立したいが、残業が多く子どもとの時間が少ない。
生徒との時間も確保したいが、業務が多く時間がとれない。

HAPPY END

フェーズ

採用前

採用後 (3年目)

採用後 (7年目)

採用後 (10年目)

行動

両親の影響で教員を志し、勉学に励む。

理科が得意で、理科の教員を目指す。

教職員定数が少しずつ増え、一人あたりの負担は減少傾向。

地域・保護者の理解で過度な要求が減り、学校教育に集中できる。

結婚し、子どもが生まれ、育児休業を取得できた。

働き方改革のリーダーとなり、業務を精選できた。

仕事と家庭の両立ができ、やる気UP

生徒との時間ができ、十分な教育ができる

感情

ウェルビーイング
実現!



教員のウェルビーイング実現が教育の未来を拓く

教員の超過勤務が減る

ストレスが減る

心身の健康が保たれる

モチベーションの保持や時間・人材充足により、十分な教育活動を実施できる

学校教育が持続可能になる



まずは超過勤務45時間以上割合を
2021年度の25.4%に戻すこと

ご静聴ありがとうございました



学校教育の働き方改革が

- 1 学校の働き方改革についての広報を展開する
- 2 県の条例で定めている教員の定数を増やす
- 3 1年を通じた働き方改革研修を実施する

未来を拓く！